

## ○今月の病害虫発生状況○

- ・炭疽病の発生は多く、うどんこ病の発生は少ないです。
- ・ハダニ類の発生はやや少なく、アザミウマ類の発生はやや多いです。
- ・ハスモンヨトウの本ぽにおける幼虫発生はやや多いです。

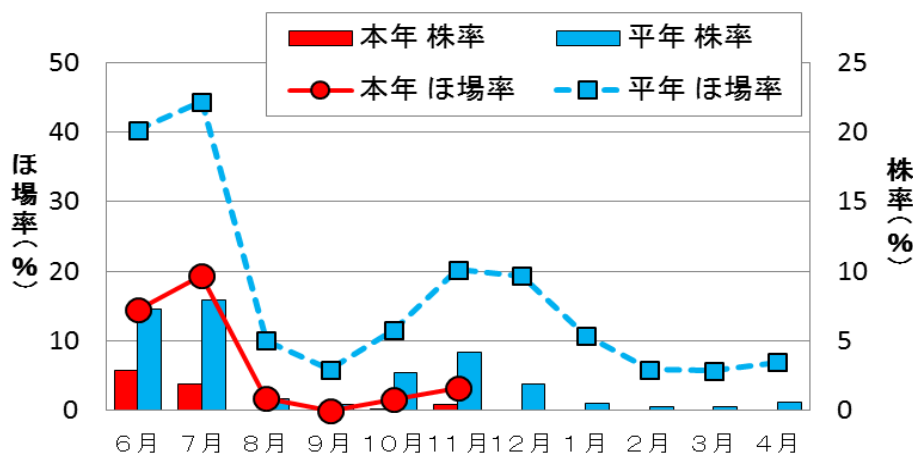


図1 うどんこ病発生ほ場率・株率

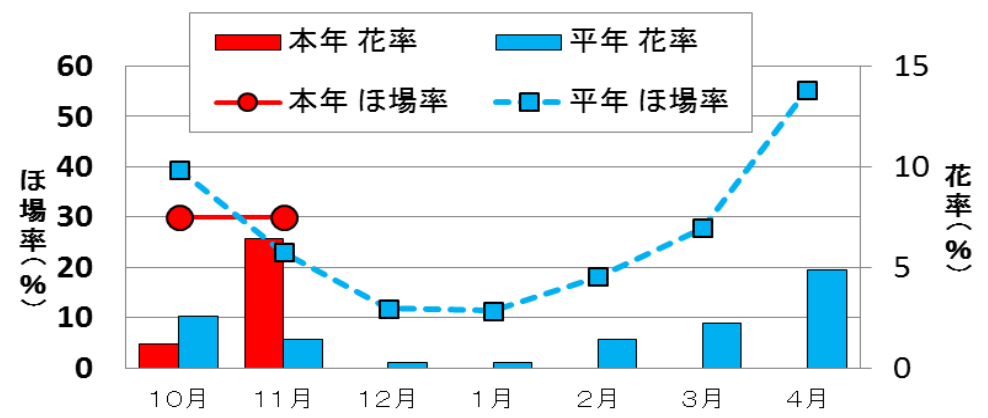


図3 アザミウマ類(花)発生ほ場率・花率

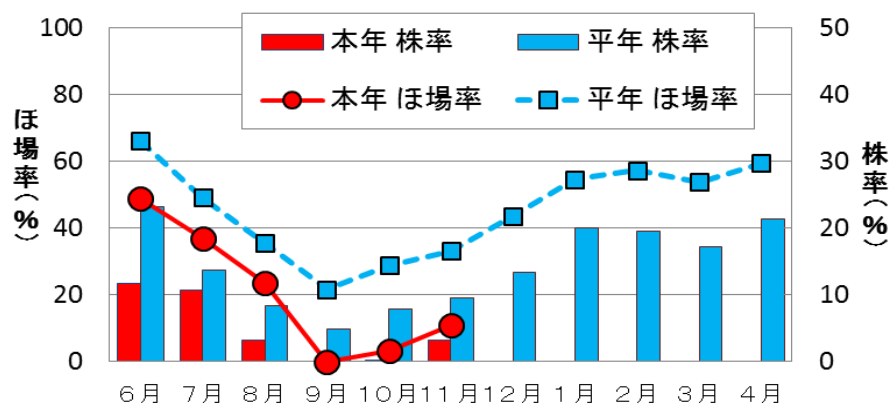


図2 ハダニ類発生ほ場率・株率

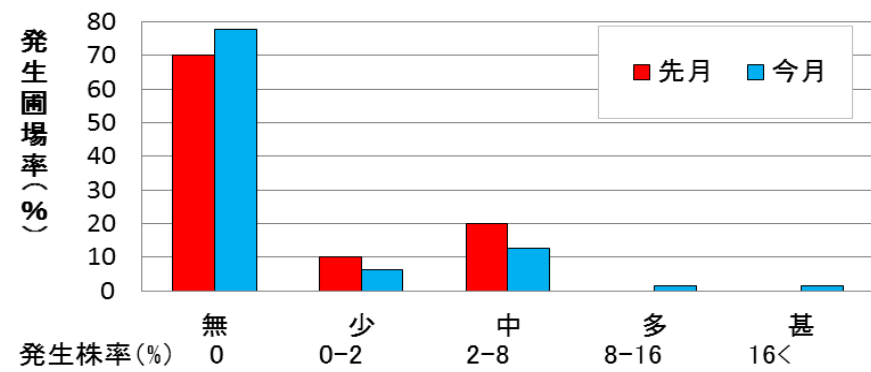


図4 アザミウマ類(花)発生程度別の地点数

## ○今月の技術情報 (技術指導班) ○ (11月)

・いちごの生育は、10月以降天候が回復したことでおおむね順調に推移していますが、定植後に日照時間が少なかったことから、根張りの悪い状況が見られます。株にできるだけ光を当てて光合成を促進させ、しっかりとした株をつくることが重要です。

・現在の病害虫の発生は、全体的に平年並から少ない状況となっていますが、保温開始後一部でうどんこ病やハダニ類の発生も見られています。ほ場をよく観察し、病害虫の早期発見早期防除を心掛けましょう。

・すでに天敵を導入しているほ場は、天敵の効果を過信することなく害虫の発生を小まめに確認しましょう。これから天敵を放飼するほ場では、農薬の天敵に対する影響日数を考慮して薬剤を選定し、防除を徹底しましょう。

・今後は、気温の低下や降雨等により低温多湿条件となることから、灰色かび病等の発生が懸念されます。高品質ないちごの生産に向けて、適切な温湿度管理を行いましょう。



写真1 花に寄生するヒラズハナアザミウマ



写真2 ハスモンヨトウ中齢幼虫